

朝鮮半島の 南北分断打破！

鍵を握るのは日本の安倍打倒の闘いだ

4

月27日、朝鮮半島を南北に分断する軍事境界線（北緯38度線）上の板門店で、南北朝鮮の両政権による首脳会談が開催されました。

その後発表された『共同宣言（板門店宣言）』では、1950～53年の朝鮮戦争での休戦協定から65年となる今年、戦争を終結させて「平和協定」締結に進むことが明記されました。また、「南と北は完全な非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現する」という文言も目標として掲げられました。

最

も重要なことは、朝鮮半島の南北分断体制がついに根底から揺らぐような情勢をつくり出した力は、パククネを打倒し監獄に叩き込んだ韓国労働者人民の1700万「ろうそく革命」のうねり、そしてその最先端での民主労総（正式名称は全国民主労働組合総連盟。80万人を組織する労働組合）の2015年4月以来の波動的なゼネラルストライキ決起にあるということです。民主労総はパククネのみならず、イミョンバク元大統領も監獄にぶち込みました。こうした力が両首脳に南北首脳会談の開催を強制して「板門店宣言」を出させたのです。ついにアメリカとソ連（当時）が強制してきた38度線の分断が打ち破られようとしています。「南北民衆が力を合わせれば軍事境界線など一瞬でぶっ飛ばせる！」——この声がソウルの街に溢れています。



写真は2016年～2017年にかけて行われた大統領府前のデモ

戦争の危機は続いている

南北首脳会談－米朝首脳会談の動きが示すものは、米トランプ政権と北朝鮮キムジョンウン政権の体制的危機です。彼らは韓国で始まった革命のうねりが朝鮮半島全体そして東アジア全域に拡大し、自らも打倒されることに恐怖しているのです。

トランプは「核先制攻撃」をうたうNPR（核体制見直し）を2月に発表し、4月にはシリア空爆を強行し、キムジョンウン政権の軍事的転覆を狙う「斬首作戦」などの演習をこの間繰り返してきました。そしてキムジョンウン政権はこれに對抗し、核兵器とICBM（大陸間弾道ミサイル）の保有・強化に全力をあげてきました。南北会談－米朝会談で、朝鮮侵略戦争＝核戦争の危機が去ったわけではありません。そもそも、「北の核完全放棄」に伴い中国の「核の傘」庇護下に入ることも取りざたされていますが、それ自身が東アジアにおける軍事的緊張と一触即発の危機を極限まで高めることとなります。

改憲にしがみつくと安倍打倒を

安倍は、トランプ以上に戦争を煽りけしかけてきた張本人（＝戦争放火者）です。「戦後レジームの打破」を掲げ、9条改憲と戦争国家化の道をこじあけるために、「北朝鮮脅威論」を誰よりも声高に叫んできました。日本全土で「Jアラート避難訓練」を強制し、排外主義を垂れ流してきました。

しかし、今回の南北会談－米朝会談プロセスから安倍は完全にはじき飛ばされました。「拉致解決」を呼号しての問題への介入も、まったく相手にされていません。相次ぐ腐敗の暴露で、昨年5月3日に安倍が叫んだ「2020年改憲プラン」そのものも破産しかかっています。（5/3産経新聞「遠のく改憲発議」）

日本共産党は「北朝鮮への経済制裁」を主張し排外主義・国家主義を深め、反対のポーズをとりながらも実際には改憲・戦争翼賛勢力に転落しています。こうした勢力を乗り越え、韓国の民衆と連帯してゼネストで戦争を止めよう！

全学連

全日本学生自治会総連合（斎藤郁真委員長）
【メール】mail_cn001@zengakuren.jp
【HP】<http://www.zengakuren.jp>